

# 「家がいいね」 第109号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013. 6. 4

年下の友人をつくらう

遷宮が20年毎を受けつぎ、62回を数えることは、人の世のつながりに息を吹き込むタイミングを教えてください。狭い幅の同世代の中であくせく競っているのではなく、20歳ぐらいは違う年の人と友達になろう。親子ほど違う年齢だが、親子とは違う関係を持つ。それも未来を共に語るのなら、年下の友人がいいと思う。



映画「天のしずく」

「いのちのスープ」という言葉を聞いたことはないでしょうか。13日まで伊勢進富座で上映の映画を紹介します。いのちの始まりに母乳があり、終わりに唇をしめらす末期の水がある。人の命は絶えることのない水の流れに寄り添って健やかに流れる。映画で描かれる、料理家・辰巳芳子のスープにも長い物語がある。



調理以前は、海・田畑など日本の風土が生み出す生産の現場。調理後にはスープを口にする家庭や施設、病院など多様な人の絆が見えてくる。

脳梗塞で倒れ、嚥下障害(えんげし)ようがいにより食べる楽しみを奪われた父。その最後の日々を、母と娘が工夫した様々なスープが支えた。それがいのちのスープの原点だった。(映画HPより)



私の映画感想です。料理の素材を慈しむよつこ、辰巳さんは一つ一つの言葉を丁寧、ゆつくりと語られます。単に栄養というだけでなく、時間の経過を通して人と人の間に食べ物が介在していると感じました。時を縮める世情は不自然だとこんなにも豊かに違うのだと紹介画像に驚きます。

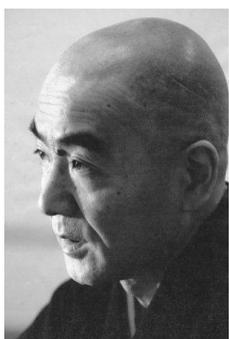
6月19日(水)は、臨時休診します

みえ生と死を考える市民の会 講演会

講師 玄侑宗久 氏作家、福島県 福聚寺住職

むしよつじの みち

## 無生死の道



午後2時半 受付

午後3時〜5時 講演

(オープニング 鈴鹿混声合唱団)

会場 三重県総合文化センター 中ホール

震災のような大自然の前に、あまりにも小さい私たちの生と死をどのように考え直すか、福島の現場から、玄侑さんが語って頂けると思います。チケットは当院にもあります。

7月5日〜7日、出張のお知らせ

日本ホスピス・在宅ケア研究会が長崎市であり、在宅医の連携のモデル地区でもあるので、ぜひとも参加して、今後の伊勢市の参考にしようと思っております。「そいでよかさ、あるがままに生きるための地域連携ネットワーク」というテーマも素敵です。その広報漫画も引用します。いいですね。この期間中の在宅患者さんには、当院の訪問看護師と連携の医師が、責任を持って対応します。